

千本山

千本山は「やなせ千本鉢巻おとし みやまびの定」のなるころは、杉のてんぎよ(てんぎよ)で、日あしを見るな 谷はくらやみ霧の底と、唄われ古くから人々に親しまれた名山。
高知県東部の最高峰、甚古森から南へ延び、西川と中川に挟まれた長い尾根の末端にあたり、太陽光を十分に受ける南斜面で、日本屈指の夕雨地帯であることから、四国の天然杉分布の中心として知られ、その中でも千本山は「一目千本」といわれる巨木群が、どっしりと根を張り、枝を伸ばし、梢が天をつく林内に、一歩足を踏み入れると、誰もがその迫力に圧倒される。

魚梁瀬杉の良さは早くから知られ、豊臣秀吉が京都の仙光寺に大仏殿を建てた際、全国の銘木を運ばせた際、一位に推されたのが魚梁瀬杉。二位は九州材、三位は本曾と、紀州熊野の材であった。まさに天工が認められた日本一の材。

天に向かって伸びる巨木の姿、いくつも見上げても梢すら見えな

見あげると、ひびいて、口が閉じ、はう。

魚梁瀬杉は、秋田杉、吉野杉とともに、日本三大銘木とよばれる。

ヤナセギは、枝が小さく、つややか、かつ、葉が密で、生え、まっすぐに高く伸びる性質をもっており、特に樹齢100年前後の頃に、のびる勢い、こも強い。

樹高40-50m 樹齢200-300年 壮観!!

ヤナセギは、高知県の、県木でも、(昭和41年9月制定)

森の巨人100選 樹高54m

17世紀の慶長へ元禄年間、約100年間は、朝廷や幕府への貢納材の徴収が厳しく、次々とヤナセギが指定され、根元が伐採され、跡地の管理は、元禄5年(1698)に、元禄10年(1703)に、元禄15年(1708)に、元禄20年(1713)に、元禄25年(1718)に、元禄30年(1723)に、元禄35年(1728)に、元禄40年(1733)に、元禄45年(1738)に、元禄50年(1743)に、元禄55年(1748)に、元禄60年(1753)に、元禄65年(1758)に、元禄70年(1763)に、元禄75年(1768)に、元禄80年(1773)に、元禄85年(1778)に、元禄90年(1783)に、元禄95年(1788)に、元禄100年(1793)に、元禄105年(1798)に、元禄110年(1803)に、元禄115年(1808)に、元禄120年(1813)に、元禄125年(1818)に、元禄130年(1823)に、元禄135年(1828)に、元禄140年(1833)に、元禄145年(1838)に、元禄150年(1843)に、元禄155年(1848)に、元禄160年(1853)に、元禄165年(1858)に、元禄170年(1863)に、元禄175年(1868)に、元禄180年(1873)に、元禄185年(1878)に、元禄190年(1883)に、元禄195年(1888)に、元禄200年(1893)に、元禄205年(1898)に、元禄210年(1903)に、元禄215年(1908)に、元禄220年(1913)に、元禄225年(1918)に、元禄230年(1923)に、元禄235年(1928)に、元禄240年(1933)に、元禄245年(1938)に、元禄250年(1943)に、元禄255年(1948)に、元禄260年(1953)に、元禄265年(1958)に、元禄270年(1963)に、元禄275年(1968)に、元禄280年(1973)に、元禄285年(1978)に、元禄290年(1983)に、元禄295年(1988)に、元禄300年(1993)に、元禄305年(1998)に、元禄310年(2003)に、元禄315年(2008)に、元禄320年(2013)に、元禄325年(2018)に、元禄330年(2023)に、元禄335年(2028)に、元禄340年(2033)に、元禄345年(2038)に、元禄350年(2043)に、元禄355年(2048)に、元禄360年(2053)に、元禄365年(2058)に、元禄370年(2063)に、元禄375年(2068)に、元禄380年(2073)に、元禄385年(2078)に、元禄390年(2083)に、元禄395年(2088)に、元禄400年(2093)に、元禄405年(2098)に、元禄410年(2103)に、元禄415年(2108)に、元禄420年(2113)に、元禄425年(2118)に、元禄430年(2123)に、元禄435年(2128)に、元禄440年(2133)に、元禄445年(2138)に、元禄450年(2143)に、元禄455年(2148)に、元禄460年(2153)に、元禄465年(2158)に、元禄470年(2163)に、元禄475年(2168)に、元禄480年(2173)に、元禄485年(2178)に、元禄490年(2183)に、元禄495年(2188)に、元禄500年(2193)に、元禄505年(2198)に、元禄510年(2203)に、元禄515年(2208)に、元禄520年(2213)に、元禄525年(2218)に、元禄530年(2223)に、元禄535年(2228)に、元禄540年(2233)に、元禄545年(2238)に、元禄550年(2243)に、元禄555年(2248)に、元禄560年(2253)に、元禄565年(2258)に、元禄570年(2263)に、元禄575年(2268)に、元禄580年(2273)に、元禄585年(2278)に、元禄590年(2283)に、元禄595年(2288)に、元禄600年(2293)に、元禄605年(2298)に、元禄610年(2303)に、元禄615年(2308)に、元禄620年(2313)に、元禄625年(2318)に、元禄630年(2323)に、元禄635年(2328)に、元禄640年(2333)に、元禄645年(2338)に、元禄650年(2343)に、元禄655年(2348)に、元禄660年(2353)に、元禄665年(2358)に、元禄670年(2363)に、元禄675年(2368)に、元禄680年(2373)に、元禄685年(2378)に、元禄690年(2383)に、元禄695年(2388)に、元禄700年(2393)に、元禄705年(2398)に、元禄710年(2403)に、元禄715年(2408)に、元禄720年(2413)に、元禄725年(2418)に、元禄730年(2423)に、元禄735年(2428)に、元禄740年(2433)に、元禄745年(2438)に、元禄750年(2443)に、元禄755年(2448)に、元禄760年(2453)に、元禄765年(2458)に、元禄770年(2463)に、元禄775年(2468)に、元禄780年(2473)に、元禄785年(2478)に、元禄790年(2483)に、元禄795年(2488)に、元禄800年(2493)に、元禄805年(2498)に、元禄810年(2503)に、元禄815年(2508)に、元禄820年(2513)に、元禄825年(2518)に、元禄830年(2523)に、元禄835年(2528)に、元禄840年(2533)に、元禄845年(2538)に、元禄850年(2543)に、元禄855年(2548)に、元禄860年(2553)に、元禄865年(2558)に、元禄870年(2563)に、元禄875年(2568)に、元禄880年(2573)に、元禄885年(2578)に、元禄890年(2583)に、元禄895年(2588)に、元禄900年(2593)に、元禄905年(2598)に、元禄910年(2603)に、元禄915年(2608)に、元禄920年(2613)に、元禄925年(2618)に、元禄930年(2623)に、元禄935年(2628)に、元禄940年(2633)に、元禄945年(2638)に、元禄950年(2643)に、元禄955年(2648)に、元禄960年(2653)に、元禄965年(2658)に、元禄970年(2663)に、元禄975年(2668)に、元禄980年(2673)に、元禄985年(2678)に、元禄990年(2683)に、元禄995年(2688)に、元禄1000年(2693)に、元禄1005年(2698)に、元禄1010年(2703)に、元禄1015年(2708)に、元禄1020年(2713)に、元禄1025年(2718)に、元禄1030年(2723)に、元禄1035年(2728)に、元禄1040年(2733)に、元禄1045年(2738)に、元禄1050年(2743)に、元禄1055年(2748)に、元禄1060年(2753)に、元禄1065年(2758)に、元禄1070年(2763)に、元禄1075年(2768)に、元禄1080年(2773)に、元禄1085年(2778)に、元禄1090年(2783)に、元禄1095年(2788)に、元禄1100年(2793)に、元禄1105年(2798)に、元禄1110年(2803)に、元禄1115年(2808)に、元禄1120年(2813)に、元禄1125年(2818)に、元禄1130年(2823)に、元禄1135年(2828)に、元禄1140年(2833)に、元禄1145年(2838)に、元禄1150年(2843)に、元禄1155年(2848)に、元禄1160年(2853)に、元禄1165年(2858)に、元禄1170年(2863)に、元禄1175年(2868)に、元禄1180年(2873)に、元禄1185年(2878)に、元禄1190年(2883)に、元禄1195年(2888)に、元禄1200年(2893)に、元禄1205年(2898)に、元禄1210年(2903)に、元禄1215年(2908)に、元禄1220年(2913)に、元禄1225年(2918)に、元禄1230年(2923)に、元禄1235年(2928)に、元禄1240年(2933)に、元禄1245年(2938)に、元禄1250年(2943)に、元禄1255年(2948)に、元禄1260年(2953)に、元禄1265年(2958)に、元禄1270年(2963)に、元禄1275年(2968)に、元禄1280年(2973)に、元禄1285年(2978)に、元禄1290年(2983)に、元禄1295年(2988)に、元禄1300年(2993)に、元禄1305年(2998)に、元禄1310年(3003)に、元禄1315年(3008)に、元禄1320年(3013)に、元禄1325年(3018)に、元禄1330年(3023)に、元禄1335年(3028)に、元禄1340年(3033)に、元禄1345年(3038)に、元禄1350年(3043)に、元禄1355年(3048)に、元禄1360年(3053)に、元禄1365年(3058)に、元禄1370年(3063)に、元禄1375年(3068)に、元禄1380年(3073)に、元禄1385年(3078)に、元禄1390年(3083)に、元禄1395年(3088)に、元禄1400年(3093)に、元禄1405年(3098)に、元禄1410年(3103)に、元禄1415年(3108)に、元禄1420年(3113)に、元禄1425年(3118)に、元禄1430年(3123)に、元禄1435年(3128)に、元禄1440年(3133)に、元禄1445年(3138)に、元禄1450年(3143)に、元禄1455年(3148)に、元禄1460年(3153)に、元禄1465年(3158)に、元禄1470年(3163)に、元禄1475年(3168)に、元禄1480年(3173)に、元禄1485年(3178)に、元禄1490年(3183)に、元禄1495年(3188)に、元禄1500年(3193)に、元禄1505年(3198)に、元禄1510年(3203)に、元禄1515年(3208)に、元禄1520年(3213)に、元禄1525年(3218)に、元禄1530年(3223)に、元禄1535年(3228)に、元禄1540年(3233)に、元禄1545年(3238)に、元禄1550年(3243)に、元禄1555年(3248)に、元禄1560年(3253)に、元禄1565年(3258)に、元禄1570年(3263)に、元禄1575年(3268)に、元禄1580年(3273)に、元禄1585年(3278)に、元禄1590年(3283)に、元禄1595年(3288)に、元禄1600年(3293)に、元禄1605年(3298)に、元禄1610年(3303)に、元禄1615年(3308)に、元禄1620年(3313)に、元禄1625年(3318)に、元禄1630年(3323)に、元禄1635年(3328)に、元禄1640年(3333)に、元禄1645年(3338)に、元禄1650年(3343)に、元禄1655年(3348)に、元禄1660年(3353)に、元禄1665年(3358)に、元禄1670年(3363)に、元禄1675年(3368)に、元禄1680年(3373)に、元禄1685年(3378)に、元禄1690年(3383)に、元禄1695年(3388)に、元禄1700年(3393)に、元禄1705年(3398)に、元禄1710年(3403)に、元禄1715年(3408)に、元禄1720年(3413)に、元禄1725年(3418)に、元禄1730年(3423)に、元禄1735年(3428)に、元禄1740年(3433)に、元禄1745年(3438)に、元禄1750年(3443)に、元禄1755年(3448)に、元禄1760年(3453)に、元禄1765年(3458)に、元禄1770年(3463)に、元禄1775年(3468)に、元禄1780年(3473)に、元禄1785年(3478)に、元禄1790年(3483)に、元禄1795年(3488)に、元禄1800年(3493)に、元禄1805年(3498)に、元禄1810年(3503)に、元禄1815年(3508)に、元禄1820年(3513)に、元禄1825年(3518)に、元禄1830年(3523)に、元禄1835年(3528)に、元禄1840年(3533)に、元禄1845年(3538)に、元禄1850年(3543)に、元禄1855年(3548)に、元禄1860年(3553)に、元禄1865年(3558)に、元禄1870年(3563)に、元禄1875年(3568)に、元禄1880年(3573)に、元禄1885年(3578)に、元禄1890年(3583)に、元禄1895年(3588)に、元禄1900年(3593)に、元禄1905年(3598)に、元禄1910年(3603)に、元禄1915年(3608)に、元禄1920年(3613)に、元禄1925年(3618)に、元禄1930年(3623)に、元禄1935年(3628)に、元禄1940年(3633)に、元禄1945年(3638)に、元禄1950年(3643)に、元禄1955年(3648)に、元禄1960年(3653)に、元禄1965年(3658)に、元禄1970年(3663)に、元禄1975年(3668)に、元禄1980年(3673)に、元禄1985年(3678)に、元禄1990年(3683)に、元禄1995年(3688)に、元禄2000年(3693)に、元禄2005年(3698)に、元禄2010年(3703)に、元禄2015年(3708)に、元禄2020年(3713)に、元禄2025年(3718)に、元禄2030年(3723)に、元禄2035年(3728)に、元禄2040年(3733)に、元禄2045年(3738)に、元禄2050年(3743)に、元禄2055年(3748)に、元禄2060年(3753)に、元禄2065年(3758)に、元禄2070年(3763)に、元禄2075年(3768)に、元禄2080年(3773)に、元禄2085年(3778)に、元禄2090年(3783)に、元禄2095年(3788)に、元禄2100年(3793)に、元禄2105年(3798)に、元禄2110年(3803)に、元禄2115年(3808)に、元禄2120年(3813)に、元禄2125年(3818)に、元禄2130年(3823)に、元禄2135年(3828)に、元禄2140年(3833)に、元禄2145年(3838)に、元禄2150年(3843)に、元禄2155年(3848)に、元禄2160年(3853)に、元禄2165年(3858)に、元禄2170年(3863)に、元禄2175年(3868)に、元禄2180年(3873)に、元禄2185年(3878)に、元禄2190年(3883)に、元禄2195年(3888)に、元禄2200年(3893)に、元禄2205年(3898)に、元禄2210年(3903)に、元禄2215年(3908)に、元禄2220年(3913)に、元禄2225年(3918)に、元禄2230年(3923)に、元禄2235年(3928)に、元禄2240年(3933)に、元禄2245年(3938)に、元禄2250年(3943)に、元禄2255年(3948)に、元禄2260年(3953)に、元禄2265年(3958)に、元禄2270年(3963)に、元禄2275年(3968)に、元禄2280年(3973)に、元禄2285年(3978)に、元禄2290年(3983)に、元禄2295年(3988)に、元禄2300年(3993)に、元禄2305年(3998)に、元禄2310年(4003)に、元禄2315年(4008)に、元禄2320年(4013)に、元禄2325年(4018)に、元禄2330年(4023)に、元禄2335年(4028)に、元禄2340年(4033)に、元禄2345年(4038)に、元禄2350年(4043)に、元禄2355年(4048)に、元禄2360年(4053)に、元禄2365年(4058)に、元禄2370年(4063)に、元禄2375年(4068)に、元禄2380年(4073)に、元禄2385年(4078)に、元禄2390年(4083)に、元禄2395年(4088)に、元禄2400年(4093)に、元禄2405年(4098)に、元禄2410年(4103)に、元禄2415年(4108)に、元禄2420年(4113)に、元禄2425年(4118)に、元禄2430年(4123)に、元禄2435年(4128)に、元禄2440年(4133)に、元禄2445年(4138)に、元禄2450年(4143)に、元禄2455年(4148)に、元禄2460年(4153)に、元禄2465年(4158)に、元禄2470年(4163)に、元禄2475年(4168)に、元禄2480年(4173)に、元禄2485年(4178)に、元禄2490年(4183)に、元禄2495年(4188)に、元禄2500年(4193)に、元禄2505年(4198)に、元禄2510年(4203)に、元禄2515年(4208)に、元禄2520年(4213)に、元禄2525年(4218)に、元禄2530年(4223)に、元禄2535年(4228)に、元禄2540年(4233)に、元禄2545年(4238)に、元禄2550年(4243)に、元禄2555年(4248)に、元禄2560年(4253)に、元禄2565年(4258)に、元禄2570年(4263)に、元禄2575年(4268)に、元禄2580年(4273)に、元禄2585年(4278)に、元禄2590年(4283)に、元禄2595年(4288)に、元禄2600年(4293)に、元禄2605年(4298)に、元禄2610年(4303)に、元禄2615年(4308)に、元禄2620年(4313)に、元禄2625年(4318)に、元禄2630年(4323)に、元禄2635年(4328)に、元禄2640年(4333)に、元禄2645年(4338)に、元禄2650年(4343)に、元禄2655年(4348)に、元禄2660年(4353)に、元禄2665年(4358)に、元禄2670年(4363)に、元禄2675年(4368)に、元禄2680年(4373)に、元禄2685年(4378)に、元禄2690年(4383)に、元禄2695年(4388)に、元禄2700年(4393)に、元禄2705年(4398)に、元禄2710年(4403)に、元禄2715年(4408)に、元禄2720年(4413)に、元禄2725年(4418)に、元禄2730年(4423)に、元禄2735年(4428)に、元禄2740年(4433)に、元禄2745年(4438)に、元禄2750年(4443)に、元禄2755年(4448)に、元禄2760年(4453)に、元禄2765年(4458)に、元禄2770年(4463)に、元禄2775年(4468)に、元禄2780年(4473)に、元禄2785年(4478)に、元禄2790年(4483)に、元禄2795年(4488)に、元禄2800年(4493)に、元禄2805年(4498)に、元禄2810年(4503)に、元禄2815年(4508)に、元禄2820年(4513)に、元禄2825年(4518)に、元禄2830年(4523)に、元禄2835年(4528)に、元禄2840年(4533)に、元禄2845年(4538)に、元禄2850年(4543)に、元禄2855年(4548)に、元禄2860年(4553)に、元禄2865年(4558)に、元禄2870年(4563)に、元禄2875年(4568)に、元禄2880年(4573)に、元禄2885年(4578)に、元禄2890年(4583)に、元禄2895年(4588)に、元禄2900年(4593)に、元禄2905年(4598)に、元禄2910年(4603)に、元禄2915年(4608)に、元禄2920年(4613)に、元禄2925年(4618)に、元禄2930年(4623)に、元禄2935年(4628)に、元禄2940年(4633)に、元禄2945年(4638)に、元禄2950年(4643)に、元禄2955年(4648)に、元禄2960年(4653)に、元禄2965年(4658)に、元禄2970年(4663)に、元禄2975年(4668)に、元禄2980年(4673)に、元禄2985年(4678)に、元禄2990年(4683)に、元禄2995年(4688)に、元禄3000年(4693)に、元禄3005年(4698)に、元禄3010年(4703)に、元禄3015年(4708)に、元禄3020年(4713)に、元禄3025年(4718)に、元禄3030年(4723)に、元禄3035年(4728)に、元禄3040年(4733)に、元禄3045年(4738)に、元禄3050年(4743)に、元禄3055年(4748)に、元禄3060年(4753)に、元禄3065年(4758)に、元禄3070年(4763)に、元禄3075年(4768)に、元禄3080年(4773)に、元禄3085年(4778)に、元禄3090年(4783)に、元禄3095年(4788)に、元禄3100年(4793)に、元禄3105年(4798)に、元禄3110年(4803)に、元禄3115年(4808)に、元禄3120年(4813)に、元禄3125年(4818)に、元禄3130年(4823)に、元禄3135年(4828)に、元禄3140年(4833)に、元禄3145年(4838)に、元禄3150年(4843)に、元禄3155年(4848)に、元禄3160年(4853)に、元禄3165年(4858)に、元禄3170年(4863)に、元禄3175年(4868)に、元禄3180年(4873)に、元禄3185年(4878)に、元禄3190年(4883)に、元禄3195年(4888)に、元禄3200年(4893)に、元禄3205年(4898)に、元禄3210年(4903)に、元禄3215年(4908)に、元禄3220年(4913)に、元禄3225年(4918)に、元禄3230年(4923)に、元禄3235年(4928)に、元禄3240年(4933)に、元禄3245年(4938)に、元禄3250年(4943)に、元禄3255年(4948)に、元禄3260年(4953)に、元禄3265年(4958)に、元禄3270年(4963)に、元禄3275年(4968)に、元禄3280年(4973)に、元禄3285年(4978)に、元禄3290年(4983)に、元禄3295年(4988)に、元禄3300年(4993)に、元禄3305年(4998)に、元禄3310年(5003)に、元禄3315年(5008)に、元禄3320年(5013)に、元禄3325年(5018)に、元禄3330年(5023)に、元禄3335年(5028)に、元禄3340年(5033)に、元禄3345年(5038)に、元禄3350年(5043)に、元禄3355年(5048)に、元禄3360年(5053)に、元禄3365年(5058)に、元禄3370年(5063)に、元禄3375年(5068)に、元禄3380年(5073)に、元禄3385年(5078)に、元禄3390年(5083)に、元禄3395年(5088)に、元禄3400年(5093)に、元禄3405年(5098)に、元禄3410年(5103)に、元禄3415年(5108)に、元禄3420年(5113)に、元禄3425年(5118)に、元禄3430年(5123)に、元禄3435年(5128)に、元禄3440年(5133)に、元禄3445年(5138)に、元禄3450年(5143)に、元禄3455年(5148)に、元禄3460年(5153)に、元禄3465年(5158)に、元禄3470年(5163)に、元禄3475年(5168)に、元禄3480年(5173)に、元禄3485年(5178)に、元禄3490年(5183)に、元禄3495年(5188)に、元禄3500年(5193)に、元禄3505年(5198)に、元禄3510年(5203)に、元禄3515年(5208)に、元禄3520年(5213)に、元禄3525年(5218)に、元禄3530年(5223)に、元禄3535年(5228)に、元禄3540年(5233)に、元禄3545年(5238)に、元禄3550年(5243)に、元禄3555年(5248)に、元禄3560年(5253)に、元禄3565年(5258)に、元禄3570年(5263)に、元禄3575年(5268)に、元禄3580年(5273)に、元禄3585年(5278)に、元禄3590年(5283)に、元禄3595年(5288)に、元禄3600年(5293)に、元禄3605年(5298)に、元禄3610年(5303)に、元禄3615年(5308)に、元禄3620年(5313)に、元禄3625年(5318)に、元禄3630年(5323)に、元禄3635年(5328)に、元禄3640年(5333)に、元禄3645年(5338)に、元禄3650年(5343)に、元禄3655年(5348)に、元禄3660年(5353)に、元禄3665年(5358)に、元禄3670年(5363)に、元禄3675年(5368)に、元禄3680年(5373)に、元禄3685年(5378)に、元禄3690年(5383)に、元禄3695年(5388)に、元禄3700年(5393)に、元禄3705年(5398)に、元禄3710年(5403)に、元禄3715年(5408)に、元禄3720年(5413)に、元禄3725年(5418)に、元禄3730年(5423)に、元禄3735年(5428)に、元禄3740年(5433)に、元禄3745年(5438)に、元禄3750年(5443)に、元禄3755年(5448)に、元禄3760年(5453)に、元禄3765年(5458)に、元禄3770年(5463)に、元禄3775年(5468)に、元禄3780年(5473)に、元禄3785年(5478)に、元禄3790年(5483)に、元禄3795年(5488)に、元禄3800年(5493)に、元禄3805年(5498)に、元禄3810年(5503)に、元禄3815年(5508)に、元禄3820年(5513)に、元禄3825年(5518)に、元禄3830年(5523)に、元禄3835年(5528)に、元禄3840年(5533)に、元禄3845年(5538)に、元禄3850年(5543)に、元禄3855年(5548)に、元禄3860年(5553)に、元禄3865年(5558)に、元禄3870年(5563)に、元禄3875年(5568)に、元禄3880年(5573)に、元禄3885年(5578)に、元禄3890年(5583)に、元禄3895年(5588)に、元禄3900年(5593)に、元禄3905年(5598)に、元禄3910年(5603)に、元禄3915年(5608)に、元禄3920年(56